

IPM実践指標(アスパラガス(施設))

分類	管理項目	管理ポイント	チェック欄				
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況		
予防	病害虫・雑草の発生しにくい環境整備	ほ場内、周辺の除草	病害虫の発生源となるので、雑草を除去する。				
		健全苗の定植(初年目のみ)	定植苗は、病害虫の発生・加害のない健全苗を使用する。				
		資材の消毒	使用した資材や支柱は残さを取り除き消毒する				
		栽培管理	耕種基準に準じて立茎させる。不要な下枝は除去する。適切な摘葉等を行い、通風採光を図る。				
		肥培管理	施肥基準に準じた、適正な肥培管理を行う。				
		病害発生源の除去	病害虫などにより枯死した株を速やかに除去する。摘葉や摘除した下枝をハウス外に持ち出して適正に処理し、施設内の病害虫の発生源をなくす。				
		施設内の湿度管理	ハウスの妻面やサイドをできるだけ開けて高温多湿にならないようにする。				
		茎葉刈り取り後	地際部より短く刈り取り、圃場外に持ち出し処分する。病害虫の越年防止のため、土壌表面をバーナーで焼く。				
判断	防除要否・タイミングの判断	病害虫発生予察情報等の活用	病害虫防除所の発生予察情報や普及センター等が出す病害虫に関する情報等を入手し、発生状況を確認する。				
		気象情報の活用	気象の状況を把握し、適期防除に心がける。				
		トラップの設置	粘着トラップ、フェロモントラップ等で害虫の発生状況の把握する。				
		病害虫の発生状況の把握	定期的に園内を見回り、病害虫の発生状況を観察及び確認する。				
防除	生物的防除	ハダニ類	生物農薬の使用	ミヤコカブリダニ剤、チリカブリダニ剤等の天敵製剤を使用する。			
		アザミウマ類 コナジラミ類	生物農薬の使用	スワルスキーカブリダニ剤等の天敵製剤を使用する。 ポーベリアバシアーナ乳剤等の微生物剤を使用する			
		チョウ目害虫類	生物農薬の使用	BT剤を使用する。			

IPM実践指標(アスパラガス(施設))

分類	管理項目	管理ポイント	チェック欄			
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況	
防除	物理的防除	紫外線除去フィルムの展張	外部から侵入した虫の行動を阻害するため施設の被覆資材に紫外線除去フィルムを展張する。			
		防虫ネット等の設置	外部からのチョウ目害虫類の侵入を防ぐため、ハウスのサイドや谷間に、4.0mm目合いの防虫ネットを設置する。			
		黄色蛍光灯、光反射資材の設置	外部からの虫の侵入を防ぐため、黄色蛍光灯の利用や光反射資材のハウス周囲設置を行う。			
	化学的防除	農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。			
		剤の選択	薬剤感受性の低下を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。			
			天敵に影響の少ない薬剤を選択する。			
			化学農薬に対する感受性の低下を抑制するため、物理的防除効果のある剤を組み入れる。			
農薬飛散防止対策	農薬散布は、無風～弱風時に飛散が少ない散布器具を使用するなど、他の作物などに飛散しないように、適切な飛散防止策を講じる。					
散布後の処理	散布器具、タンク等の洗浄を十分行い、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等に流入しないようにする。					
その他	作業日誌の記帳	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の名称、使用時期、使用量、散布方法等栽培管理状況を記録する。				
	研修会等への参加	県や農業協同組合が開催するIPM研修会等に参加し、情報収集に努める。				